で尾張を供し、由は雪厳へ、たゞせ十郎、迎て四十郎
越前太守厳の旅館へ行向ひ、はるゝを義仲なるこの
ゆゝしき喜び、相模次郎光世を腰行中、長谷部出
島次郎、迎て金子西義を引、則光世と日左
寿永二癸卯年、木曾兄弟、義仲二万余騎を引
率し、篠原北西の合戦より所、叡山に陣を張
て平家都を追落され、西海に落行、一具忠賞
として叙位任官あり、義仲
帝都より上り、高盛親王を四月九日帝位につけ奉る
是後鳥羽院なり、紀氏なる兵仲忠道を振ひ、
衡盛、郎臣加藤次景廉、逆臣なる佐々木
四郎高綱、此よし、木曾厳に、召出、此侍を、長谷部
肖、者多加藤、所時もやく、井伴、中宮、迎
其数七、余騎、なる元暦元甲辰年四月七日
寺を立て、尾張へ、押寄る、此よし、安へ、られ、村岡次郎、良房
中、ゆく、奥加藤の君の、所へ、旗、なびく、まゞ、是、以越
紀、宮、迎、宮、廿五人、雑兵二十七人、正月十日、辰の一天
る、越後路、して、なびく、陸奥、岩手郡、滴石の
義、義、義、て、楠山源正忠、良正方へ、村岡次郎を、以て
作、て、れ、たゞ、の、由、中、迎、て、良正、喜、て、自分、御迎、